

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2000-78654  
(P2000-78654A)

(43) 公開日 平成12年3月14日 (2000.3.14)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>  
H 0 4 Q 7/38

識別記号

F I  
H 0 4 B 7/26

テーマコード\* (参考)

1 0 9 M

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平10-241260

(22) 出願日 平成10年8月27日 (1998.8.27)

(71) 出願人 000003595

株式会社ケンウッド  
東京都渋谷区道玄坂1丁目14番6号

(72) 発明者 加藤 勝信

東京都渋谷区道玄坂1丁目14番6号 株式  
会社ケンウッド内

(72) 発明者 佐藤 隆雄

東京都渋谷区道玄坂1丁目14番6号 株式  
会社ケンウッド内

(74) 代理人 100086368

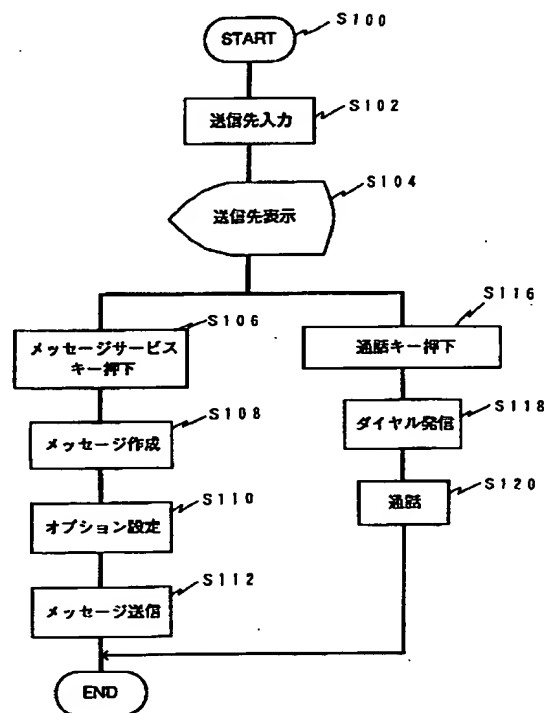
弁理士 萩原 誠

(54) 【発明の名称】 移動体通信端末におけるメッセージ送信方法

(57) 【要約】

【課題】 少ない手順で簡単にメール送信を可能とする操作性に優れた移動体通信端末におけるメッセージ送信方法を提供すること。

【解決手段】 最初に送信先の相手を入力し (S102)、表示部64に表示された送信先で良ければ (S104)、メール送信を実行するメッセージサービスキーを押下する (S106)。メッセージサービスキーが押下されると、表示部64は新規メッセージの入力画面になるので (S108)、新規メッセージをキー操作部60で入力して通話キーを押下すればメッセージ送信が完了する (S112)。また、また、オプション設定を行って送信する場合には、所定のキー操作により「オプション」を選択し、送信メッセージに関する所望のオプションを設定後 (S110)、通話キーを押下すればメッセージ送信が完了する (S112)。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 移動体通信端末におけるメッセージ送信方法において、

メッセージの送信先を指定した後にメッセージ送信機能を起動して送信メッセージを作成するメッセージ作成画面に移行し、

前記メッセージ作成画面にメッセージを作成して前記送信先にメッセージを送信することを特徴とする移動体通信端末におけるメッセージ送信方法。

【請求項2】 請求項1に記載の移動体通信端末におけるメッセージ送信方法において、

前記送信先はダイヤルキーまたはメモリダイヤルを含む電話帳機能や発信履歴により選択、特定することを選択とする移動体通信端末におけるメッセージ送信方法。

【請求項3】 請求項2に記載の移動体通信端末におけるメッセージ送信方法において、

前記送信先を選択、特定したのち、ダイヤル発信を行なうかメッセージ送信するかを選択する選択手段を備えたことを特徴とする移動体通信端末におけるメッセージ送信方法。

【請求項4】 請求項3に記載の移動体通信端末におけるメッセージ送信方法において、

前記選択手段は、所定の操作キーの押下によりダイヤル発信を行なうかメッセージ送信するかを選択することを特徴とする移動体通信端末におけるメッセージ送信方法。

【請求項5】 移動体通信端末におけるメッセージ送信方法において、

同報発信、返答付同報発信、回覧板等のメッセージ送信機能の中のアプリケーションを、複数のメンバーにより構成されるメール用グループに対応付けて登録し、

メッセージ送信を行うときに前記登録したメール用グループの中から所望のグループを選択し、その後、メッセージ送信機能を起動すると、メッセージを作成するメッセージ作成画面に移行し、

前記メッセージ作成画面により前記送信先に発送する送信メッセージを作成後、メッセージ送信を行うことを特徴とする移動体通信端末におけるメッセージ送信方法。

【請求項6】 請求項1または5に記載のメッセージ送信方法において、

前記メッセージ送信機能は送信相手先を特定した後にワンキーで起動され、メッセージを作成するメッセージ作成画面に移行することを特徴とする移動体通信端末におけるメッセージ送信方法。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は移動体通信端末、より具体的には電子メール等のメッセージ送信機能を備えた移動体通信端末におけるメッセージ送信方法に関する。

## 【0002】

【従来の技術】近年、携帯電話機やPHS等の移動体通信端末の高機能化が進み、中には音声通信だけではなく、文字メッセージを送受信できるメール機能を備えた移動体通信端末が開発・販売されている。例えば携帯電話機やPHS等でメッセージの送信を行う場合、メールセンターに一旦送信メッセージが蓄積された後、メールセンターを介して送信相手先に送信メッセージが送られる。

【0003】以下、この種の携帯電話機やPHS等で送信メッセージを作成し、送信するまでの手順を説明する。

(1) 所定のキー操作を行ってメッセージサービスモードに入る。

(2) 複数のアプリケーション、例えば通常送信、同報発信、返答付同報発信、回覧板等がある場合は、これらアプリケーションの中から所望の機能を選択する。

(3) 送信相手先の通信媒体（携帯電話、E-mail等）を選択する。

(4) 送信相手先を特定する。

(5) 送信メッセージを作成する。

(6) オプション（相手通知音、プライバシーレベル等）を設定する。

(7) メッセージを送信する。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、従来技術におけるメール機能では、上述したようにメッセージを送信するまでに煩雑な手順（キー操作）が必要であった。このため気軽にメッセージを送信できないという問題があった。特に携帯電話機やPHS等では、外出先よりメッセージを送信するため、少ない手順で簡単にメール送信ができる操作性は非常に重要である。

【0005】また、メッセージ送信をしようと思って上記の手順で操作をしたが、やはり電話を直接かけようとした場合、改めて送信相手先のダイヤル入力等が必要となり臨機応変な対応がとれなかった。さらに、同様に、ダイヤル発信を試みようとして、急にメッセージ送信に切り換えたい場合も操作性は悪くムダな時間がかかった。

【0006】本発明はこのような従来技術の課題を解決し、少ない手順で簡単にメール送信を可能とする操作性に優れた移動体通信端末におけるメッセージ送信方法を提供することを目的とする。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】本発明は上述の課題を解決するために、移動体通信端末におけるメッセージ送信方法では、メッセージの送信先を指定した後にメッセージ送信機能を起動して送信メッセージを作成するメッセージ作成画面に移行し、このメッセージ作成画面にメッセージを作成して前記送信先にメッセージを送信する。

【0008】また、本発明によれば、移動体通信端末におけるメッセージ送信方法は、同報発信、返答付同報発信、回覧板等のメッセージ送信機能の中のアプリケーションを、複数のメンバーにより構成されるメール用グループに対応付けて登録し、メッセージ送信を行うときに登録したメール用グループの中から所望のグループを選択する。グループ選択後、メッセージ送信機能を起動すると、メッセージを作成するメッセージ作成画面に移行し、メッセージ作成画面により送信先に発送する送信メッセージを作成してメッセージ送信を行う。

【0009】

【発明の実施の形態】次に添付図面を参照して本発明による移動体通信端末におけるメッセージ送信方法の実施の形態を詳細に説明する。図2を参照すると本発明による移動体通信端末の実施の形態、すなわちメッセージ送信機能を備えた移動体通信端末の機能ブロック図が示されている。

【0010】本実施の形態による移動体通信端末は、当該端末装置の全体を制御するマイクロコンピュータ(MPU)50と、電話番号の入力や文字メッセージの入力または電子電話帳への登録さらにメール用グループの設定等を行う種々のキーが配設されたキー操作部60と、電子電話帳に登録されたデータやメール用グループとして設定されたデータが保存されるE<sup>2</sup> PROM62と、キー操作部60から入力された電話番号やメッセージ情報または各種動作モードのアイコン等を表示するLCD等からなる表示部64とを備える。なお、この表示部64には、例えばメッセージ送信を行う場合、送信するメッセージの他に、メッセージ送信中やメッセージ送信の成功または失敗等も表示される。

【0011】当該端末装置はまた、着信時にこの装置を振動させて着信を知らせる振動モータ66と、基地局からの電波を受信したり基地局への電波を送信するアンテナ68と、アンテナ68を介して送受信する音声信号やデータ信号に対してRF送信処理またはRF受信処理を行うRF回路70と、スピーカ72と、マイク74とを備える。当該端末装置はさらに、RF回路70でRF受信処理された受信信号をAF処理してスピーカ72から音声出力するとともに、マイク74から入力した音声信号をAF処理してRF回路70に出力するAF回路76を備える。

【0012】MPU50は、その内部にCPU51、ROM52、RAM53、クロック54、I/Oポート55およびタイマ56により構成されている。CPU51は、クロック54から供給されるクロックに同期して動作し、ROM52に格納されている当該端末装置の動作処理手順を規定するプログラムに基づき、指定された処理を演算データおよび外部情報を格納するRAM53を用いて実行する。CPU51はまた、I/Oポート55を介してMPU50以外の各構成要素と接続され、信号

やデータの授受を行うことにより、所定の機能を実行する。

【0013】以下、本発明に特に関係のあるメッセージ送信機能の実施の形態の操作手順および動作を、図1のフローチャートと図2の機能ブロック図を用いて説明する。本実施の形態では、メール送信を行う場合、従来のように初めにメール送信モードに遷移するのではなく、電源を投入して待ち受け状態のときに(S100)、最初に送信先の相手端末を入力する(S102)。その際、キー操作部60のダイヤルキーを用いて電話番号や電子メールアドレス等を入力しても良いし、メモリダイヤルを含む電話帳機能や発信履歴により送信先を検索し、その中から送信先を検索してもよい。このようにして選択された送信先はCPU51の制御によって表示部64に表示される(S104)。

【0014】表示部64に表示された送信先で良ければ、メール送信を実行するメッセージサービスキーを押下する(S106)。なお、本実施の形態においてメッセージサービスキーは、通話キーと同様にキー操作部60の独立したキーとして割り当てられているので、簡単にワンキーでメールモードに遷移することができる。メッセージサービスキーが押下されると、CPU51は表示部64に新規メッセージの入力画面を表示する(S108)。

【0015】新規メッセージをキー操作部60により入力し、入力したメッセージを送信メッセージとして確定すると、CPU51は表示部60に例えば「送信/オプション」の選択画面を表示する。このメッセージをそのまま送信する場合には「送信」が選択されている状態で、キー操作部60の例えば通話キーを押下して送信を実行する(S112)。また、オプション設定を行って送信する場合には所定のキー操作により「オプション」を選択し、送信メッセージに関するオプションを設定する(S110)。オプションとして、例えば「相手通知音」、「プライバシーレベル」、「配信確認設定」、「優先度設定」、「相手PIN番号」および「配信端末指定」等が用意されており、この中から所望の機能を送信時に選択することができる。

【0016】具体的には、「相手通知音」は送信先にメッセージを届ける時に音で知らせる機能であり、「プライバシーレベル」はメッセージを読むときに暗証番号を必要とさせたり転送や編集を行えないようにする機能である。また、「配信確認設定」はメッセージが相手に届いたかどうかの配信結果をセンターから受信する機能であり、「優先度設定」はメッセージの優先順位を相手に通知する機能である。さらに、「相手PIN番号」は送信先端末が着信を許可する4桁の暗唱番号が設定されている場合には該当するPIN番号を登録する機能であり、「配信端末指定」は相手の配信端末を指定する機能である。オプションの設定が完了すると、「送信/オプ

ション」の選択画面が表示されるので、前述したようにこの状態で通話キーを押下して送信を実行する（S112）。

【0017】通話キーが押下され、メッセージ送信が実行されると、CPU51は表示部64に「メッセージ送信中」の文字を表示し、無事、メッセージが相手に届くと「メッセージ送信しました」の文字を表示する。一方、メッセージを相手に送信できなければ、CPU51は「メッセージを送信できませんでした」「送信未確認配信確認してください」の文字を表示部64に表示する。

【0018】一方、メッセージ送信を行わない場合には、表示部64に送信先が表示されているステップS104の状態で通話キーを押下する（S116）。この操作により通常通話処理であるダイヤル発信が行われ（S118）、相手端末の応答操作により通話が開始される（S120）。以上、図1では対個人宛にメールを送る場合の処理フローを示したが、本実施の形態ではメール用グループを用いて複数の相手に同じメッセージを送信することも可能である。

【0019】以下、図3～図6を用いて複数の相手に同じメッセージを送信する場合の実施の形態を説明する。複数の相手に同じメッセージを送信する場合のアプリケーション（機能）としては、例えば同報発信、返答付同報発信および回覧板等がある。同報発信および返答付同報発信は送信側が複数の相手に対して順次メールの送信を行う機能である。同報発信と返答付同報発信の相違は、受信側からの返答を受信しないのが同報発信で受信するのが返答付同報発信である。また、回覧板は、別名リレーメールとも称し、メールを受信した端末がこのメールで指定された次の送信先にメールを送信していき、最後にメール送信を行った端末が自分で発信したメールを受信する機能である。

【0020】このようなアプリケーションによりメールを行う場合、実行するアプリケーションとそのメンバーをメール用グループに登録する。この登録にあたって、本実施の形態では図3に示した個人の電話番号等が登録されている電子電話帳を利用する。図3に示した電子電話帳の例では、「名前」、「読み」、「電話番号」および「PIN番号」を登録する項目がありこれに必要事項を登録する。例えば、相手側端末にPIN番号の設定が行われている場合に該当するPIN番号をここで登録しておけば、発呼時にオプション設定でPIN番号を一々入力する必要がなくなるとともに誤入力も防止できる。

【0021】図4（a）、図4（b）はメール用グループの登録時の内容を示したものであり、また図5

（a）、図5（b）は図4で登録された内容を別の角度でそれぞれ示したものである。すなわち、図4（a）は1番目のメモリグループであるメモリグループ1に「回覧板」のアプリケーションを設定し、グループ名を「会

社」としたときの登録例を示している。また、このグループ1に登録するメンバーを、図3の電子電話帳より検索して「佐藤」、「鈴木」および「伊藤」を指定している。

【0022】同様に、図4（b）はメモリグループ2に「同報発信」のアプリケーションを設定し、グループ名を「友人」としたときの登録例を示している。また、このグループ2に登録するメンバーを、図3の電子電話帳より検索して「菅野」、「木村」、「神谷」および「長尾」を指定している。図5に示すように各メール用グループには、グループ名、アプリケーション名および複数のメンバーが電子電話帳とリンクされて登録される。このように登録されたメール用グループ名が選択され、メッセージ送信機能が起動されると、CPU51はグループ別に登録されたメール機能を実行する。図6は登録したメール用グループを用いてメッセージサービスを行うときの操作手順の動作フローを示したものである。以下、図6を用いて複数の相手に同じメッセージを送信する場合を説明する。

【0023】電源が投入されている待ち受け状態で（S200）、所定のキー操作によりメール用グループを選択すると（S202）、CPU51は選択したグループ名とこのグループに対応付けられて登録された実行アプリケーション名を表示部64に表示する。この状態でメッセージサービスキーを押下すれば（S204）、CPU51は表示部64に新規メッセージの入力画面を表示する（S206）。メッセージを作成後、そのまま送信する場合には通話キーを押下してメッセージの送信を行う。また、前述したようなオプションを設定する場合にはオプション設定を行った後（S208）、メッセージの送信を実行する（S210）。

【0024】具体的には、例えば図4（a）に示した「会社」のグループを選択すれば、「佐藤」、「鈴木」および「伊藤」に対して「回覧板」のアプリケーションが自動的に実行される。また、図4（b）に示した「友人」のグループを選択すれば、「菅野」、「木村」、「神谷」および「長尾」に対して「同報発信」のアプリケーションが自動的に実行される。このように、これらアプリケーションを使用する場合でも従来と比べて非常に少ない操作でメッセージ送信を行うことが可能となる。

【0025】以上、詳細に説明したように本実施の形態を用いれば、送信先またはグループ名を選択した後に、メッセージサービスキーを押下するだけでアプリケーション等を選択、設定が自動的に行え、かつ、メッセージ作成画面に移行してメール送信を行うことが可能となる。したがって、従来技術のように煩雑なキー操作を必要とせずにメッセージ送信を行うことができる。

【0026】

【発明の効果】このように本発明の移動体通信端末にお

けるメッセージ送信方法によれば、送信先の詳細な設定をその都度しなくても良くなるとともに、少ないキー操作でメッセージを送信することが可能なので、使用者に対する操作性の向上を期待できる。また、送信先を選択してから電話をかけるかメッセージ送信を行うかを選択することができるので、送信先を選択後、電話からメッセージ送信に変更する場合でも、初めから操作をやり直す必要が無くなる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明による移動体通信端末におけるメッセージ送信方法の実施の形態を示すフローチャート。

【図2】本発明による移動体通信端末におけるメッセージ送信方法の実施の形態を示す機能ブロック図。

【図3】本実施の形態における電子電話帳の登録例を示す説明図。

【図4】本実施の形態におけるメール用グループの登録内容を示した説明図。

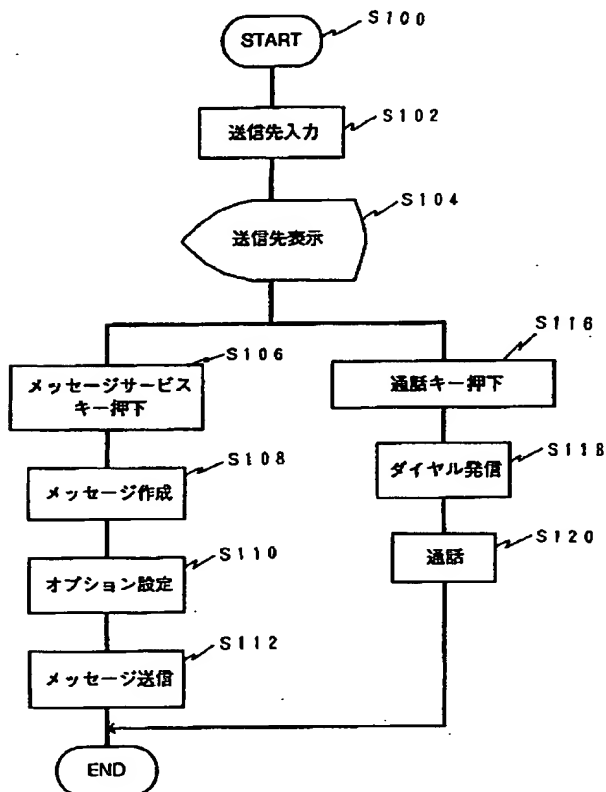
【図5】図4に示したメール用グループの登録内容を他の形式で示した説明図。

【図6】図4または図5に示した回覧板または同報発信の機能を使用するときの処理手順を示すフローチャート。

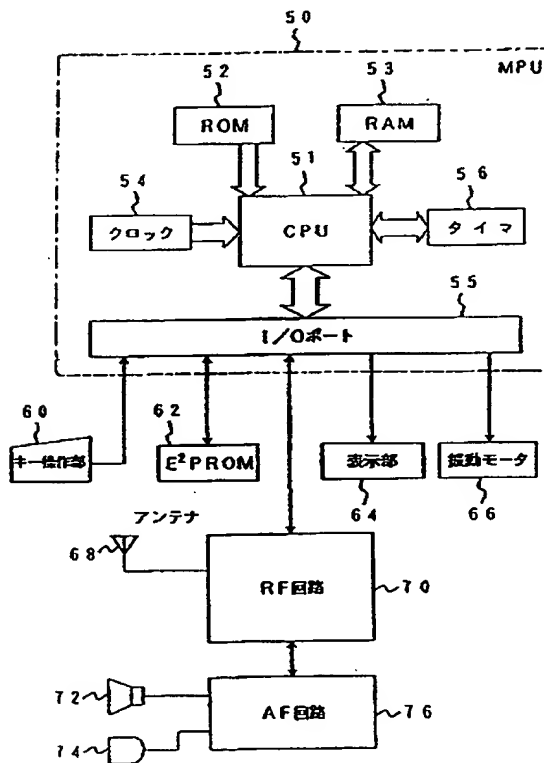
#### 【符号の説明】

50	MPU
51	CPU
52	ROM
53	RAM
54	クロック
55	I/Oポート
56	タイマ
60	キー操作部
62	E <sup>2</sup> PROM
64	表示部

【図1】



【図2】



【図3】

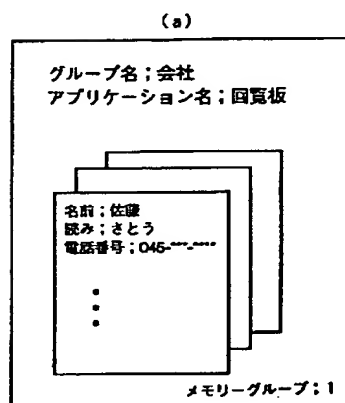
名前	読み	電話番号	PIN番号
佐藤	さとう	045-***-****	1111
鈴木	すずき	045-***-****	1234
伊藤	いとう	03-****-****	
菅野	かんの	03-****-****	1354
木村	きむら	03-****-****	
神谷	かみや	03-****-****	7896
長尾	ながお	06-***-****	3654

【図4】

(a)

メモリグループ1	
アプリケーション名	回覧板
グループ名	会社
メンバー	佐藤
	鈴木
	伊藤

【図5】



(b)

メモリグループ2	
アプリケーション名	同報発信
グループ名	友人
メンバー	菅野
	木村
	神谷
	長尾

【図6】

